ヤンバルトサカヤスデ対策に関わるQ&A

生態について

鹿児島県ホームページ
ヤンバルトサカヤスデについて

Q１：ヤスデの寿命はどのくらいですか？
A：卵→幼体→亜成体→成体へと脱皮を繰り返して成長し、寿命は約１年～１年半です。

Q２：人を咬んだり刺したりしますか？
A：落葉などを食べる分解者なので、人を咬んだり刺したりすることはありませんが、外敵から身を守るため、刺激を受けると有毒なガスや体液を放出します。ガスを吸い続けると、気分が悪くなることがあります。

Q３：ヤスデをバーナーで焼いたり、お湯をかけて駆除しても良いですか？
A：上述のとおり、焼いたりお湯をかけたりすると有毒なガスを放出しますので、絶対に行わないでください。

Q４：集めた死骸はどのように処分すれば良いですか？
A：各自治体へお問い合わせください。各自治体の窓口等の情報は、右上のQRコードから御確認ください。

薬剤防除について

Q１：薬剤はどこで入手できますか？また、購入に際して補助がありますか？
A：各自治体へお問い合わせください。

Q２：薬剤の効果はどのくらい持続しますか？
A：薬剤によって異なりますが、２週間程度とされています。使用場所や天候など条件により変化するため、状況をみて次の散布時期を判断してください。

Q３：ヤスデが薬剤に触れてからどのくらいで死にますか？
A：薬剤の付着度合いによりますが、数分から数十分で麻痺が起きて動けなくなります。翌朝になるとほとんどの個体が死亡します。

Q４：家の周りに撒く薬剤はヤスデを誘引するのですか？
A：林分に散布するベイト剤(毒餌)は誘引して摂食させることで駆除しますが、家屋周辺に散布する粉剤、微粒剤、細粒剤には誘引物質は入っておりませんので誘引することはありません。家屋周辺に死骸が多く集積するのは、林分等から出てきた個体群が家屋周辺に現れ、薬剤と接触して死亡したものです。

Q５：ヤスデに使う薬を畑で使ってもよいですか？
A：農耕地で使用できる薬剤は農薬登録のある薬剤のみです。家屋周辺で使用する不快害虫駆除剤は農薬登録を取得していませんので、使用することは出来ません。

Q６：薬剤の安全な使用方法について知りたい
A：薬剤のラベルに使用方法や注意事項が記載されていますので、確認の上、記載内容に従って適切に使用してください。不明な点があれば販売会社にお問い合わせください。

Q７：薬剤を植木の株元や芝などに散布しても大丈夫ですか？
A：食用作物(果樹を含む)及びその周辺には散布しないでください。芝に対しては、微粒剤や細粒剤を散布しても根元に落ち込み、ヤスデが薬剤に触れにくくなることが予想されますので、芝を植えていない部分に散布することをおすすめします。

詳しくはお住まいの市町村役場の環境衛生担当課又は鹿児島県廃棄物・リサイクル対策課（０９９－２８６－２５９４）にお問い合わせください。

鹿児島県

一般家庭用 ヤンバルトサカヤスデのまん延防止対策

ヤンバルトサカヤスデとは

ヤンバルトサカヤスデは体長2.5~３cm(成体)の台湾原産の外来生物です。
鹿児島県においては、平成３年に奄美大島で初めて確認されて以来、県本土まで生息域を広げ、令和６年末までに33市町村で発生が確認されています。県外においても太平洋側を中心に、関東、東海、近畿、四国エリアで発生が確認されています。

本種が引き起こす不快被害

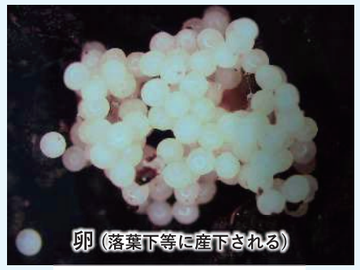
農作物や人に直接被害を与えることはありませんが、**繁殖力が強く、秋期におびただしい数で集団移動する**ため、林分付近の住宅地に多数出没し、家屋に浸入したり、ブロック塀やコンクリートの壁に定位したりするため、住民に**強い不快感を与えます**。

集団で定位する成体

食性と生態

落ち葉や腐った腐植物を餌としており、本来は土壌の分解者です。**日光の当たらない暗く湿った場所を好みます**。年間を通して生息は確認されていますが、冬期に交尾・産卵し、春から夏にかけて脱皮を繰り返して成体になります。
県本土では９～12月頃、奄美地域では５～６月頃と10～12月頃に集団移動による不快被害が発生します。

発生地の生息環境


卵（落葉下等に産下される）

幼体

まん延防止に必要な対策

繁殖力が強いため、定着した個体を根絶することは困難です。
不快被害を引き起こさないためには、**住宅の周囲を本種が定着しにくい環境にする**必要があり、**環境整備と駆除を併せて行うことが重要**です。

【左端：卵】→【幼体】→【右端：成体】

家屋への侵入防止対策

対策❶：環境整備

ヤスデが生息しやすい環境を家屋周辺に作らないことが重要です。
雑草管理や**落葉の除去**のほか、隠れ家となる**資材の撤去**や、**鉢やプランターなどの底上げ**も有効です。
また、ヤスデはつるつるした垂直面を登れないことから、家屋周囲の外壁下部にヤスデ返し(ステンレス板、アルミテープ、養生テープなどのヤスデが登りにくい資材)を設置することで侵入を阻止することができます(降雨により資材に泥はねがあった場合は、柔らかい布でふき取る必要があります)。

養生テープ(緑色部分)を使ったヤスデ返し
(写真：錦江湾高校提供)

ステンレス版を使ったヤスデ返し

対策❷：薬剤による防除

- **家屋周囲などに薬剤を散布**しておくことで、接触したヤスデを駆除し、屋内への侵入を防ぎます。**壁際など、垂直面の下に薬剤を散布すると効果的**です。
- 対策用の薬剤は粉剤、微粒剤、細粒剤のタイプがありますが、いずれの薬剤も**家屋周りの犬走り、植木鉢・プランターや資材の下等に規定量(20～30g/㎡)散布**するものです。
- 薬剤の種類によって若干異なりますが、**持続期間は2週間程度**です。薬剤の粉や粒が残っていても、**２週間を超えると十分な効果は期待できません**ので、その場合は再散布を行ってください。
- 犬走りなど、底面がコンクリートの場合は、降雨によって薬剤が流亡する場合がありますので、薬剤の持続期間の有無に関わらず、**流亡部分に補正散布**を行ってください。
- 使用にあたってはラベルをよく読んでお使いいただくとともに、安全面(人、愛玩動物、水産動物等)や環境影響にも配慮し、用法・用量を守って使用しましょう。

家屋周辺で薬剤を使用する場合の注意事項

- 薬剤の散布量は**1㎡あたり20～30g程度**です。**撒き過ぎには十分注意**してください。
- **散布の際はゴム手袋、マスクなどを必ず着用**し、**散布後は手洗い・うがい**を行ってください。
- **愛玩動物などが接触する可能性のある場所には散布しない**でください。
- **池や側溝付近など、降雨によって流入するおそれのある場所には薬剤を散布しない**でください。

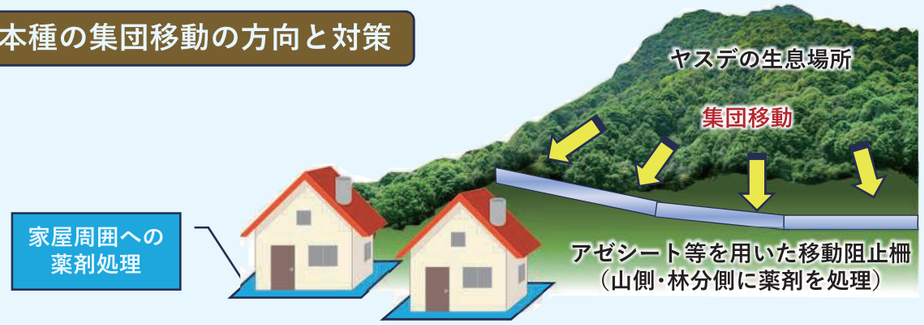
地域への侵入防止対策

対策❶：環境整備

家屋への侵入防止対策と同様、**本種が生息しやすい環境を作らないことが重要**です。餌となる落葉の除去や、陰になりやすい繁茂した雑草地などの草払いを行います。
環境整備は地域で一斉に実施した方が効果的です。
また、住宅地への侵入を阻止する目的で、山際や林分との境界に**アゼシート等を設置することも有効**です。

アゼシートを用いた侵入阻止柵の例

本種の集団移動の方向と対策



対策❷：薬剤による防除

侵入防止用の薬剤を用いた対策は、**使用する薬剤の特性を理解し、正しく使うことが重要**です。
環境整備、アゼシートの設置等と組み合わせることで、より高い効果が期待できます。
各種薬剤の詳細については県や各販売会社のホームページを御覧ください。

薬剤に触れ、死亡した個体群

アゼシートの外側(林分側)
に薬剤を処理すると有効

注意！

側溝付近など、降雨によって水系に流入するおそれのある場所には薬剤を散布しないでください。